

卒業式 式辞

銀杏の木々が夕陽を浴びて、これから芽を出そうと体内にそのエネルギーを満たし、「一刻値千金」と古人も讃えた、この佳き春の宵に、多数の御来賓の皆様のお臨席を賜り、平成30年度愛媛県立松山南高等学校卒業証書授与式を挙行できますことを、教職員、生徒一同心から感謝申し上げます。

17名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。私は、皆さんが夕方仕事などを終え、先生方に温かく迎えられる姿や、進路実現にひたむきに努力する姿を見守ってまいりました。とりわけ、役員を中心に全員で取り組んでいただいた、いも炊き観月祭や運動会、文化祭などの学校行事の、見事な盛り上がりとその場の空気のぬくもりに、その都度驚嘆し、「定時制」の伝統ここにありと、改めて感じ入りました。卒業生の皆さんの真摯な取組に心から感謝しています。ありがとうございました。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。お子様の晴れの姿をご覧になられて、感慨もひとしおのことと推察申し上げます。この日を迎えるまで、お子様の成長

の過程では、いろいろな御苦勞がおありだったと思います。高校入試では気をもまれたことでしょうし、元気で学校に通っているか、友達とはうまくやれているか、勉強は大丈夫か、夜遅いけれど事故に遭ってはいないかなどと、気の休まる日がなかったのではないかと思います。そのような心配は、まるで杞憂であったかの如く、お子様たちは立派に成長され、今日御卒業であります。本当におめでとうございました。

さて、卒業生の皆さん、間もなく、新しい元号の時代が始まろうとしています。歴史を紐解けば、今から約150年ほど前、江戸時代から明治にかけて、時代を動かしたのは高い「志」を持つ若者たちでした。幕末に限らず、いつの時代においても、社会をしっかりと支え大きく進展させてきたのは、若者の持つ純粋な心と熱いエネルギーであり、これからも間違いなくそうでしょう。

今、30年間続いた平成が終わりを告げ、時代が大きく変わろうとしています。これからの時代を生きていく皆さんには、自分の夢や希望をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中での自分の役割を考え、生涯を通じて果たすべき「志」を持ってもらいたいと思

います。世のため人のために尽くすということです。

そして、志の実現のために「心を耕し、言葉を磨いて」
いただきたいと思います。様々な経験を通じて心を掘り
起こし、未知の自分を知り、苦しいことや辛いことを乗
り越えて、よりたくましく、より優しくなっていただき
たい。もちろん、美しいものや素晴らしいものを見聞き
し、感性が豊かになることも、また、読書をして人生の
深さに気づき、生きるヒントを得ることも心を耕すとい
うことです。大地を耕して初めて豊かな実りが得られる
ように、心を耕して柔軟で強い精神を養っていただきたい
と思います。困難や失敗、挫折や落胆こそが、心の肥
料となるということを忘れないでください。

そして、人とつながり、互いを尊重・敬愛し、分か
り合うために、自分の思いが相手の心に響くように、言葉
を磨いていきましょう。言葉一つで、人間関係は違った
様相を呈してきます。言葉によって人は勇気づけられ、
元気が湧いてきます。時には、その人の人生を大きく左
右することもあります。そのような言葉の力を知り、そ
の力を獲得することで、より良い人生を歩んでいきまし
ょう。

もし、これからの人生で行き詰ることがあったら、その時は「他力」を借りてください。一人で何もかもできるはずがありません。助けを求めれば、必ず救いの手を差し伸べてくださる人がいます。人は、一人で生きているのではなく、生かされているのですから。人に助けを乞う生き方をよしとしましょう。困って他力を借りるときは、まず母校である南高定時制の先生方を訪ねて来てください。必ず、笑顔で迎えてくださいます。

「志高く 心を耕し 言葉を磨け」これが卒業される皆さんへの餞の言葉です。皆さんは、これからの社会を担う「大いなる人」たちです。その大いなる人たちの成長に少しでも関わったことが、私たち南高定時制の教職員の幸せであり、誇りです。

最後になりましたが、御列席いただきました御来賓の皆様、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます、式辞といたします。

平成31年3月1日

愛媛県立松山南高等学校

校長 染田 祥孝